

鉄道のまち -美濃太田駅開業100年- 文化の森 ☎28-1110

今年で美濃太田駅は開業100年。「鉄道のまち」の歴史の一部を紹介していきます。



1921-2021

① 美濃太田駅開業の頃

日本の鉄道は、1872(明治5)年に、新橋―横浜間で開業したことに始まります。

その20年後、1892(明治25)年に東海道線が全通すると、軍事上の目的もあり、中部日本を南北につなぐ飛騨縦貫鉄道建設への動きが活発になりました。そのルートは、岐阜駅から関を通って金山へ通すという案や、名古屋駅から太田へ出る案などがありました。

結果的に、岐阜駅から鶉沼を通って太田へ出るコースに決まり、1918(大正7)年に高山線の鉄道敷設法案が可決。そして翌年5月に着工し、1921(大正10)年11月12日に美濃太田までが開通しました。

美濃太田の駅舎は現在のプラザちゅうたい付近に建設予定でしたが、地元住民が水害の関係上、その位置の変更を願い出るなどしたため、現在の辺りになりました。下の写真は、駅の開

業直前の写真ですが、建物の後ろには稲の「ハザ」が見えます。当時、周辺には田畑が広がり、駅のある場所は松林の茂る原野であったと言われます。



▲高山線開通乗車案内状(左)と開業直前の美濃太田駅(右)

文化の森企画展「鉄道のまち」展
(12月18日～3月6日)
美濃太田駅や鉄道に関する写真や
資料を文化の森までお寄せください。